

動物資源生産学特論（一）（2単位）

担当者氏名 相馬 幸作、平山 博樹

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

動物資源生産を扱う専門領域は広く、農学、畜産学、自然生態学にわたっている。動物の多様性の保全を含めた生物生産は総合科学と位置付けられ、新しい動物資源の開発や多様な環境に配慮した動物資源生産力の拡大、さらに動物資源機能の新しい応用などに関わる教育が必要である。本特論では、まず、既存の動物資源の生産に関わる背景や現状など基礎的な知識を習得する。本講義はオムニバス方式で行い、1～7は平山が、8～15は相馬がそれぞれ担当する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

動物資源学 世界の家畜 動物生産 生物生産
飼料資源

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	家畜の起源と活用	・在来家畜と地域特性	・講義毎に、講義内容の資料を配付するが、事前に各種統計資料に目を通し、背景となるデータの確認をしておくこと。また、配付資料はファイリングし、講義の復習を行うこと。
2	国内の家畜生産	・日本の家畜種と活用例	
3	国外の家畜生産1	・中国・東南アジアの家畜種と活用例	
4	国外の家畜生産2	・ヨーロッパの家畜種と活用例	
5	国外の家畜生産3	・アフリカの家畜種と活用例	
6	国外の家畜生産4	・アメリカの家畜種と活用例	
7	国外の家畜生産5	・オセアニアの家畜種と活用例	
	1～7回を平山		
8	飼料生産の現状と課題	・飼料生産の現状	
9	飼料自給率の向上	・飼料自給向上のための研究成果	
10	代替飼料の活用	・穀類価格の高騰への対応	
11	家畜飼育の実際1	・牛の飼養管理技術	
12	家畜飼育の実際2	・豚の飼養管理技術	
13	家畜飼育の実際3	・特用家畜の飼養管理技術	
14	新規動物生産	・エミューの飼養管理技術	
15	家畜生産の応用例	・エゾシカの個体数調整と一時養鹿事業	
	8～15回を相馬		

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

講義ごとに関連資料を配布する

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

動物遺伝育種学辞典／動物遺伝育種シンポジウム組織委員会編／畜産技術協会（2001）
新版特用畜産ハンドブック／新版特用畜産ハンドブック編集委員会／畜産技術協会（2007）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

レポートにより評価を行う。

◆オフィスアワー

講義後または毎週火曜日の午後に、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

ディスカッションをする場合があるため、事前の資料収集を怠らないこと。